

やまもり通信 vol.79

こおろぎや鈴虫の声が聞こえてきます。
いつのまにか季節は秋。
空に浮かぶ雲、吹く風にも秋の気配を感じます。



【加子母の風景】山里の秋、恒例の干柿づくりに精を出す。甘い干柿になあれ。



こちら 彩都やまもりです

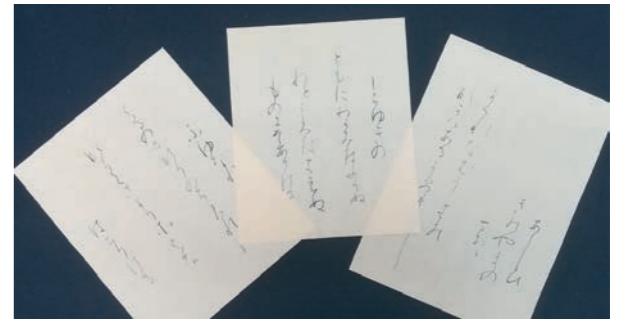
【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26

【彩都やまもり 10・11月 彩輝館ギャラリー展示情報】

大阪樟蔭女子大学2年生書展「仮名の書」を開催します。

【期間】10月5日(水)～10月12日(水)

8月に開催した「染の書」に続き、今回は大阪樟蔭女子大学国文学科書道コース2年生の皆様による「仮名の書」の作品展です。色とりどりの料紙に平安時代の仮名を使い、各自が創意工夫を凝らした作品の数々をぜひご覧ください。



「岐阜の木 大好き!暮らしを彩る岐阜の木製品」を開催します。

【期間】10月14日(金)～12月25日(日)

岐阜県内で作られた木枡やインテリア小物など、生活に取り入れることで木の香りやぬくもりに気持ちも癒され、暮らしが豊かになります。岐阜の木工作家さんが手掛ける木の小物、期間限定で販売しますので、ぜひお気に入りを見つけに来てください!



【11月イベント情報】 恒例の「やまもり市」を開催します。

定番の朴葉寿司や加子母トマトなど、スタッフいちおしの岐阜の特産品を数量限定で販売します。この時期ならではの「栗きんとん」も販売予定。すべて売り切れ御免です!

【日時】11月5日(土)・6日(日)9時半～15時頃 ※売り切れ次第終了

【場所】彩都やまもり敷地内



(有)さわの「ぼっか煮」

川魚を一度素焼きにしてから長時間かけて柔らかく、薄味に煮上げた甘露煮、「ぼっか煮」。圧力釜を使わず弱火で煮ているため頭からしっぽの先まで捨てることなく食べられます。岐阜県の奥飛騨の清流で育った「あゆ」、「いわな」、「あまご」の3種類で、手作りの良さを大事にし、素材の風味を生かすため添加物もほとんど使用されていません。ごはんのおかずや酒の肴としてはもちろん、炊き込みご飯にするのもおすすめで、簡単に鮎めしやあまごめしが作れます。興味のある方はぜひ一度お試しあれ。彩都やまもりにて販売しています。



【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)

※最新情報は随時、
彩都やまもり HP
(<https://yamamori.site>) や
facebook でご確認ください。



やまもりHP

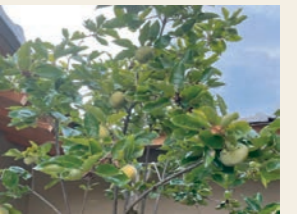


やまもりfacebook

彩都やまもり ひとこと日記

今年も柿の実がなりました!

彩都やまもりのモデルハウス「飛騨の匠館『yakata(やかた)』」の中庭にある柿の木に、今年も柿の実がなりました。植樹して3年目の去年、初めて成った実は確か5～6個だったと思います。それが今年はずでに10個以上。まだまだ青いですが、1つまた1つと日を追うごとに増えている気がして、思わず嬉しくなります。と同時に、青い実のまま地面に落ちてしまっているものも時折見かけます。風に吹かれて落ちてしまったのか、鳥についばまれて落ちてしまったのかはわかりませんが、落ちてしまった柿を見ると思わず「もったいないなあ」と思ってしまうのは、食い意地が張っている私だけでしょうか? とにかく、秋に向けて青い実からオレンジ色に熟していく柿を見るのは毎朝の楽しみ。さるかに合戦のかにのようにせつせつと水やりをしているわけでもありませんが、今年も秋の収穫が今から楽しみです。これから台風シーズン。どうか雨風に負けないで、元気に育って(?)欲しいです。



歌舞伎ー！！

やったー！！

コロナで3年ぶりとなった
加子母歌舞伎公演。

今年は11月に開催ということで

久しぶりのおケイコが始まりました！！

わーいわーい！！

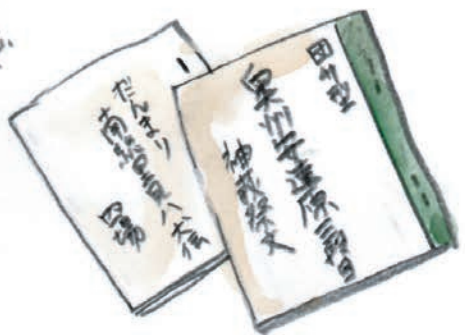
かしも明治座で久しぶりの仲間、

久しぶりの師匠と、対面でできるおケイコ。

毎年あたり前にやっていたことの

ありがたさをしみじみ感じています。

どうか無事に幕があきますように。



本間希代子 絵描きイラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して25年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 <http://tebakko.jp>



中桐由紀子さん

他府県から移住し岐阜に暮らす「人」に焦点をあわせた企画、今回は前回の中村さんからのご紹介で中桐由紀子さんにお話しをお伺いしました。(やまもり通信編集室・以下「や」)

や) 中桐さんは同じ岐阜県内からの移住とお聞きしましたか。

中桐) はい、各務原(かがみはら)市の出身です。学校を卒業後ワーキングホリデーを利用してオーストラリアとニュージーランドに行き、そこでパーマカルチャーや持続可能な暮らしについて学びました。

や) パーマカルチャーとは？

中桐) 人と自然が共存する社会をつくるためのデザイン手法のことで、わかりやすく言うと環境にやさしくて負荷をかけない暮らしや、人と自然がともに豊かになるような関係性を築く仕組みづくりの事をいいます。

や) そこで学んだことで中桐さんが具体的に起こした行動について教えてください。

中桐) それまでの都会暮らしに疑問を持ち、自然や丁寧な暮らしが残る田舎で仕事をしながら暮らしたいと思った時に、たまたま実家がある岐阜県下呂市で協力隊の募集をみつけたので移住することにしました。そこで出会っ

た方たちと持続可能な暮らし方ができる場所をつくらうと古民家を改修し、2018年6月に農村滞在型の宿「ソラノイエ」をオープンしました。ソラノイエは山や田んぼに囲まれた静かな集落にある古民家で、朝は鳥のさえずりで目覚め、昼は太陽の恵みをたっぷり感じて夜は星空を眺めてゆっくり過す。近所の人と季節や地域の話をしたり旬の野菜を交換したりと、便利なものがなかった時代の知恵を使う暮らし方が今も残っているような地域です。ホテルや旅館に泊まるような旅のスタイルではなく、「田舎の友達の家に遊びに行こう」という感覚でお越しいただけると嬉しいです。



農村滞在型の宿 ソラノイエ
TEL 0576-20-4093
〒509-2423 岐阜県下呂市蛇之尾 1345
<https://soranoye.gifu.jp/about/index.html>

※まめ＝東濃地方の方言「元気」という意味

加子母の人 山守日記 13 第71回 江戸時代の婚活事情

前回は、御山守内木彦七の『御山方御用井所持日記』から『岩屋』の父清十郎と長女おさよの婿・紋蔵の喧嘩をご紹介しました。その後も口論が絶えない二人、岩屋はどうなったでしょうか？江戸時代の婚活事情もご紹介いたします。

●分家！後継者どうする問題

結局二人を一つの家に住ませ続けるのは難しかったようで、明和8年11月、婿の紋蔵は近くに家を建て、長女おさよと子供を連れて分家・独立してしまいました。

さてそうなるか『岩屋』の家督を誰に継がせるかが問題に。清十郎は、やむなく次女おぎんに婿をとって家督を相続させようと考え、近所の人たちに良い人がいないか相談を持ちかけました。

その2年後婿とり話が本格化。『下屋』の藤吉が候補者を探す役目を頼まれた様です。この年の正月、藤吉は彦七の元を訪れ『岩屋』の後継者に『松嶋』の直蔵はどうかと尋ねました。直蔵は彦七にとっても意中の人物だったようで「是より他二存付キ無之(これより他に思い当たらない)」と賛同しています。しかし、いろんな相談が彦七の元へ来るんですね。

●超スピード婚と超スピード離婚

藤吉のお陰で2月14日には婚儀の話がまとまり、23日には祝言をあげることになりました。当事者のおぎんさん、直蔵さんの心中やいかに。でもそれが当たり前だった時代はそういうものだったのかしら。

関西発会活動けいじ板

●高山市の國島市長(当時)が勇退の挨拶に彩都に來訪されました！

「私が考える自治体の長に必要な資質である、集中力、胆力、情熱、対応力を今後4年間持ち続けることは難しい、またこれまでの公約を達成するめどがなかった。」ことを挙げて今期限りで退任し4期目の立候補をしないと不出馬を表明された國島芳明高山市長が7月26日(火)午後、関西地区のあいさつ回りの一環として箕面市彩都やまもりの関西県人連合会の事務局に來られました。

本来なら県人会、連合会の役員皆さんにも連絡して、しかるべき場所を設定しようとして、國島市長にも相談したのですが、「次のスケジュールが詰まっていますあまり時間がないので、皆さんにはよろしくお伝えください。」とのことで、僭越ながら私と鳴海剛史大阪県人会事務局長で応対させて頂きました。

國島市長が初当選された2010年は、期せずして大阪県人会110周年で、関西県人連合会発足の年にあたります。それ以来、県人会、連合会の事業には時間の許す限り出席を頂き、公務と重なった場合は代理出席や、お土産の提供などの申し入れなど本当に気を使っていたいただき、その心配りには頭の下がる思いでした。

また就任以来、主要産業の観光の更なる振興に注力されていたこともあり、我々の悲願である「関西地区に岐阜の情報発信拠



当時の結婚は概ね農閑期に行われ、親類や周囲の人たちの周旋で相手が決まると、すぐ祝言をあげてしまうことが多かった様です。また逆に、結婚後、夫婦間や義父・義母との折り合いが悪いと、祝言から半年も経たないうちに離縁することも多かったみたい。お試し婚というのが、結婚してみても半年程度で夫婦同士・家同士の相性を見極める風潮があったのかも知れませんね。



参考文献：山村の人・家・つきあい―江戸時代の「かしも生活」① 太田尚宏著 徳川林政史研究所発行

点を」の最大の理解者のお一人で何かと相談に乗っていただき、力強いエールを送っていただきました。

「今後は立場が変わりますがいち市民、県民として県人会活動を応援していきますよ。」と語られた國島市長の眩しいばかりの笑顔が印象的でした。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

関西岐阜県人連合会 会長代行 徳田昭憲



國島高山市長(左から2人目)と。

●京都県人会より「鴨川納涼」出店報告

京都岐阜県人会は、8月6日・7日に鴨川三条・四条間河畔で行われた「鴨川納涼」に出店しました。2019年以来3年ぶりの開催となった今回、天候にも恵まれ多くの方が来場されました。感染対策のために調理を伴う飲食物の出品を控えるなどの制限はあったものの、その中で工夫を凝らして県の名産品や県人会会員企業の商品などを出品し、賑やかなブースになりました。来年はより完全な形で開催されることを願っています。